

## 高齢者の生活実態に対応した住宅防火対策のあり方に関する検討部会（第2回） 議事要旨

- 1 日時：令和3年1月21日（木） 15時00分から17時00分まで（WEB開催）
- 2 出席者
  - (1)委員等（敬称略、順不同）  
松山部会長、村井委員、梅原委員、遠藤委員、河野委員、小林委員、佐々木委員  
宮崎委員、浅見委員、田村委員、橋本委員、岩本オブザーバー、関根オブザーバー
  - (2)事務局  
消防庁予防課長以下5名
- 3 配付資料
  - 資料1 第1回検討部会 意見取りまとめ
  - 資料2 住宅火災の実態データ集
  - 資料3 高齢者の生活実態等アンケート調査結果
  - 資料4 高齢者に生活実態等を踏まえた住宅防火対策について  
  - 参考1 高齢者の生活実態等アンケート調査結果－調査報告書－（株式会社日本能率協会総合研究所）
  - 参考2 加熱式たばこの安全性について
  - 参考3 住宅防火対策の取組み事例
- 4 議事内容（○委員発言、●事務局発言）
  - (1)第1回検討部会意見取りまとめについて
    - 【事務局】資料1により説明を行った。
    - 【委員】（意見無し）
  - (2)住宅火災の実態データ集について
    - 【事務局】資料2により説明を行った。
    - 【委員】近年、電気火災による死者数が増加傾向にあるが、理由について消防庁で分析は実施しているか。
    - 【事務局】詳細な分析はできていないが、家電の種類が増えているのも一因と考えられる。また、高齢者は同じ家電を長く使い、老朽化してもなかなかそれを買換えないといった傾向やコンセントやタップからの出火も多く、一人暮らしの高齢者は、コンセントのほこり等に目が行き届かないなど、これらの要因が考えられる。
    - 【委員】たばこ火災について、喫煙率の低下に伴って死者の絶対数は減っているという理解でよいか。
    - 【事務局】世代ごとの傾向はあるとみられるが、喫煙率が下がったことで、全体の死者数は減少しているものとする。
    - 【委員】たばこ火災について、加熱式たばこへの切替えなどがあると思うが、嗜好品でもあり、今紙巻きたばこを加熱式たばこに替えるというのがなかなか難しい世代もあると思う。  
違う方向でのたばこに対する効果的な対策というのが、何か立てられればよいと考える。
    - 【事務局】参考資料2のとおり、加熱式たばこの安全性はある程度分かっており、JIS規格も策定されたことから、それらをよりPRしていくことも一つの方法と考えている。

- 【委員】ストーブを出火原因とした火災件数について、電気ストーブによる件数は全国的にどの程度か。電気ストーブは他のストーブに比べ安全だという認識を持っている方が多いため、注意喚起が必要と考える。
- 【事務局】追加データをお示しする。
- 【委員】当本部の管轄では、令和2年、死者が発生した火災のうち、ストーブに関するものが9件、電気ストーブが原因で発生したものがそのうちの8件で9割となっているため、特に、電気ストーブについて注意するよう広報を行っている。
- 【委員】独居・非独居別死者数について、さらに詳細なデータの抽出は可能か。
- 【事務局】保有しているデータを確認し、可能な限りお示ししたい。

(3)高齢者の生活実態等アンケート調査結果について

- 【事務局】資料3及び参考資料1により、株式会社日本能率協会総合研究所 南氏より説明を行った。
- 【委員】標本数がキリのいい数字となっているが、抽出方法について教えて頂きたい。
- 【事務局】標本数に関しては、もともと指定された数を調査するという仕様です。で、数が達した時点で回収を終了している。また、指定された数を超えたものについてはランダムに抽出をしている。

(4)高齢者の生活実態等を踏まえた住宅防火対策について

- 【事務局】資料4により説明を行った。
- 【委員】初期消火対策ということで、定期的な防火防災訓練等への参加促進という形で書かれているが、高齢者に至っては、今、防火防災訓練は地域で実施する震災訓練以外には実施は難しい状況にあり、当市では、高齢者が参加する行事、例えば介護予防教室とか百歳体操などに、消防職員が出向いて防火防災の研修を行っているという取組を行っている。  
また、そこで指導、声かけした結果、なかなか改善が見込めない高齢者の方に、市は消防職員が関係者の方と一緒に防火防災診断を実施するというような取組も行っている。これは、火災全体の予防になっていると思いますので、これらも加味して頂きたい。
- 【事務局】資料には記載していない周知方法等についても検討していきたい。
- 【委員】「いのちを守る 7つのポイント」の改正案で、現行がガスコンロで、ガスというのが除かれているが、その理由はなぜか。  
また、「コンセントは、ほこりを清掃し、たこ足配線はしない」と改正されているが、住宅火災における電気火災で、コンセントが出火原因として最も多いためか。
- 【事務局】書きぶりや表現については、他の委員の方からの意見等も踏まえ修正する。  
なお、コンセントについては、一般的に取組みやすい火災予防対策として代表的なものをお示ししている。
- 【委員】部屋の整理整頓というのは、火災の拡大防止のためにこそ重要ではないかと思われる。  
早期避難に関して言うと、高齢者とか身体の不自由な方等は、火災になったら、早く避難することや、再進入をしないということを強調するべきと考える。
- 【委員】S iセンサーコンロという表現は高齢者には伝わりにくいと考えるので工夫が必要。  
また、包括支援センターは全国に存在し、様々な高齢者のイベントを

実施しているため、そういった方面に働きかけを行う事で全国的に広まりやすいと考える。

- 【委員】 火災統計のデータを扱っていると、説明の通り、電気関係の火災が非常に増えている。4番のコンセントのような配線器具はもちろん増えているが、それと同等かそれ以上に、屋内配線、そこから火災も増えているように思われる。屋内配線をどう維持管理や取り替えていくのかというと、現実的にはほぼ難しいことではあるが、電気火災自体の注意喚起のコンセントと、コンセント周りのほこりの清掃などに特化してしまうことで、逆に本来ある危険というもののメッセージが伝わらないのではないか。
- 【事務局】 委員の方からの意見等も踏まえ、報告書への取りまとめを行う。
- 【委員】 防災品の普及等について住民だけではなく、製造者側との連携も必要と考える。